

マンガ野田三郎伝

真勢敵闘

浪華商業學校

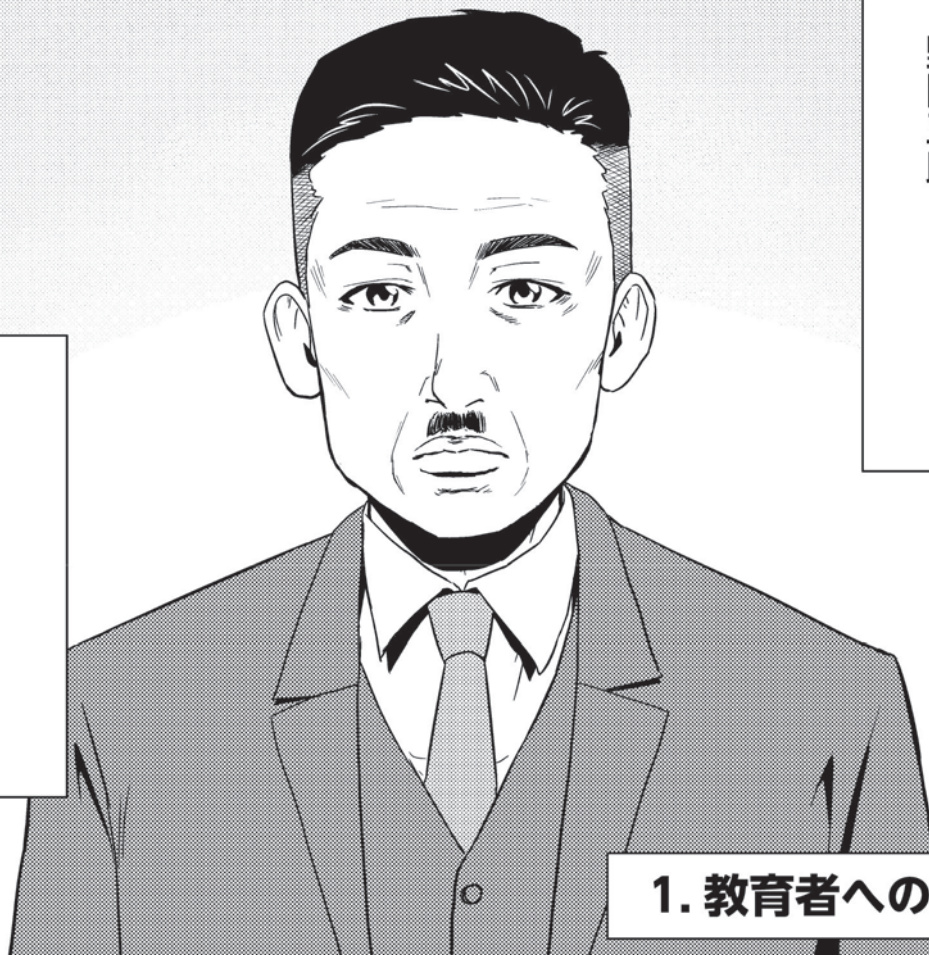


略年表

西暦	和暦	出来事
1890	明治23	佐賀県佐賀郡大和町にて誕生
1912	明治45	長崎高等商業学校(現・長崎大学)卒業 株式会社大分県農工銀行へ就職
1916	大正 5	大分県農工銀行を辞し、福岡県渡辺総本店(投資会社)へ就職
1920	大正 9	渡辺総本店を辞し、株式会社住友倉庫大阪本社へ就職
1921	大正10	徳永四郎より浪華商業学校の設立について、酒宴の席で相談を受ける 浪華商業実修学校設立認可に協力
1924	大正13	甲種商業学校として浪華商業学校設立認可。設立者として名を連ねる 野球部発足
1932	昭和 7	株式会社大阪倉庫の支配人に就任
1934	昭和 9	火災のため校舎が全焼。翌年、徳永四郎が運営困難などの事情により引責辞任
1935	昭和10	浪華商業学校創立者代表兼校長に就任
1936	昭和11	焼失後の仮校舎から本校舎へ移転
1937	昭和12	第14回全国選抜中等学校野球大会で初優勝
1943	昭和18	当局の命により淡路工業学校へ改称
1945	昭和20	戦災で再び校舎焼失
1946	昭和21	浪華商業学校に校名復帰 第28回全国中等学校優勝野球大会で優勝
1947	昭和22	学制改革により浪商中学校設立認可、校長に就任
1948	昭和23	学制改革により浪華商業高等学校設立認可、校長に就任
1950	昭和25	浪商附属幼稚園設立認可、園長に就任 大阪府公私立商業高等学校連盟会長に就任
1955	昭和30	大阪府私学総連合体育委員長に就任
1956	昭和31	大阪府私立中学校高等学校連合会副会長に就任
1959	昭和34	高校普通科設置に伴い、校名を学校法人浪商学園、浪商高等学校と改称。引き続き理事長兼校長に就任(昭和42年 3月31日まで校長) 私立学校教育振興の功労者として大阪府知事より受賞
1960	昭和35	藍綬褒章を受章 関西商業教育研究会(近畿、中国、三重県の公私立商業高等学校の研究会)会長に就任
1963	昭和38	大阪市東淀川区から茨木市に移転、4,700坪から2万3,000坪・4階建て鉄筋校舎への大移転
1963	昭和38	中澤米太郎氏に体育大学設立の協力を申し込み、東京オリンピック選手強化対策本部長の大島鎌吉氏を紹介され、 「大島氏招聘団」を結成 全国商業高等学校長協議会常務理事に就任
1964	昭和39	大阪産業大学設置認可申請を文部省へ提出(同年12月1日に大阪体育大学へ名称変更の上届け出)
1965	昭和40	大阪体育大学設置認可、学長に就任
1966	昭和41	勲四等旭日小綬章を受章 大阪私学経営者協議会会長に就任
1968	昭和43	茨木スイミングスクール設立、代表に就任
1972	昭和47	大阪産業教育振興協議会会長に就任
1974	昭和49	大阪体育大学生産体力開発センター設立、代表に就任
1975	昭和50	8月17日、85歳にて逝去

浪商学園の礎を築いた
野田三郎

その人物とは――



1. 教育者への転身

野田三郎は1890年
佐賀県佐賀郡大和町にて誕生



長崎高等商業学校卒業

大分県農工銀行へ就職するも
福岡県渡辺総本店へ転職
さらに

住友倉庫大阪本社へ転職

この時すでに
30歳を迎えていた



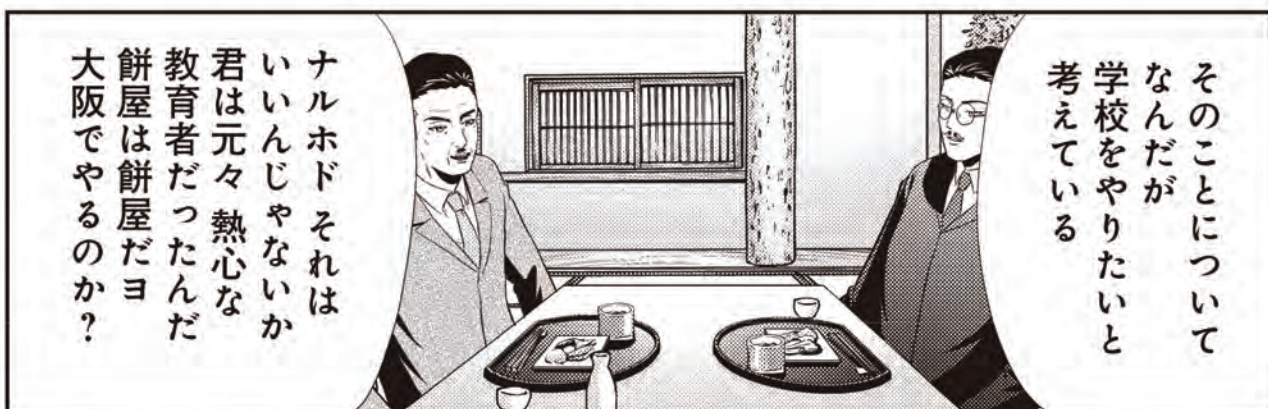


ヤア徳永くん
教師をやめたと
聞いたがどうだい？



やあ野田くん
久しぶりだね

徳永四郎



そのことについて
なんだが
学校をやりたいと
考えている

ナルホドそれは
いいんじゃないか
君は元々熱心な
教育者だったんだ
餅屋は餅屋だヨ
大阪でやるのか？



ああここは
商業都市と言いながら
教育機関が貧弱だ
これから働きに出る
青年たちももっと
学びたいはずだ

教育者として
彼らのために
教育施設を充実
させてやりたい



同感だね

できることは
協力しよう

会社勤めだった野田に
徳永の話は刺激的に
映っただろう

度々相談にきては
熱心に語り合った
2人だった

1921年
浪商学園の第一歩となる
浪華商業実修学校が設立



野球に熱心な
野田に対して
腰が重かった
徳永だが

野球を始めたい
生徒からの
声も上がり
1924年
正式な部として
発足

さらに
1926年
全国中等学校
優勝大会に
初出場する

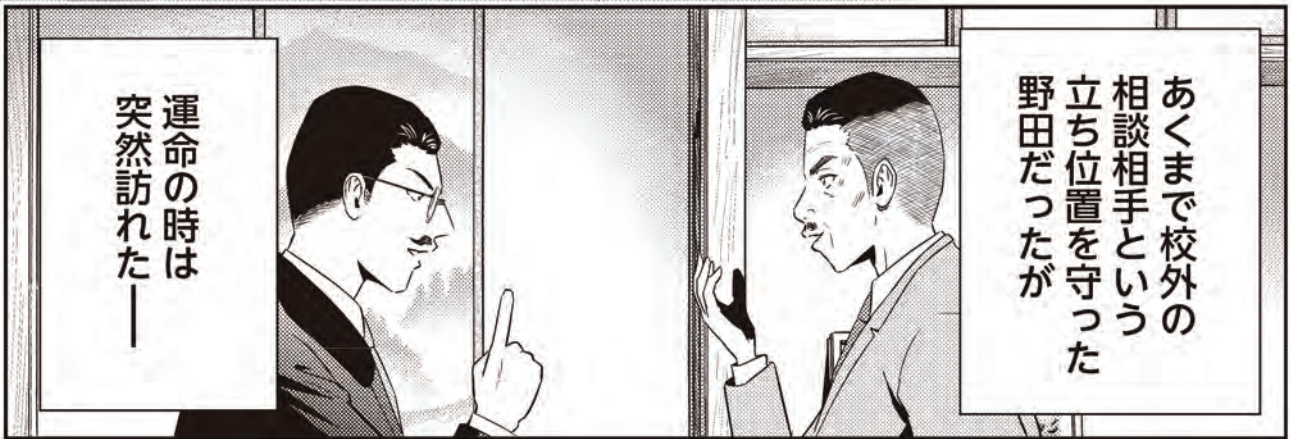
その後も徳永は
着実に教育の環境を
整えつつあった

甲種浪華商業学校の
認可を受け
東淀川区国次町に
本校舎を竣工



あくまで校外の
相談相手という
立ち位置を守った
野田だったが

運命の時は
突然訪れた――



火事だー！

校舎が
燃えてる
ぞー！！



火災のため校舎が全焼
徳永四郎引責辞任
白羽の矢がたったのが――

1935年野田三郎
浪華商業学校創立者代表
兼校長に就任

秘めた闘志が
立ち上がる――



2. 軍靴の足音響くなか

1936年
焼失後の仮校舎から
本校舎に移転

1937年
全国選抜中等学校
野球大会初優勝

野田の校長就任後
着々と成果を
上げる浪商だった





野田が教育に
尽力するも
時代の大きな波には
逆らえず——
第二次世界大戦勃発

軍の力が学校へも
影響を与える
こととなる

野球さえも制限の
対象となり

野球を続けよう

生徒たちの
活動の場を
奪われて
たまるか

ボールがなければ
石でやろう

野球は健全だ
スポーツは
生徒たちの不安も
かき消す力がある！



野球なんて
アメリカのスポー
ツじゃないですか

最後まで抗うも
浪商野球部も
活動の一時中止を
余儀なくされる



今は耐えよう

戦争が
終わりさえすれば
また野球はできる



1945年
大阪大空襲

わー
逃げろー

野田は外出先から
学校へ戻る途中
避難していた

学校は無事
だろうか…

避難警報が
解除され
外に出ると

一面
焼け野原と
なっていた

野田先生！

学校が焼けて
しまいました！！

!?

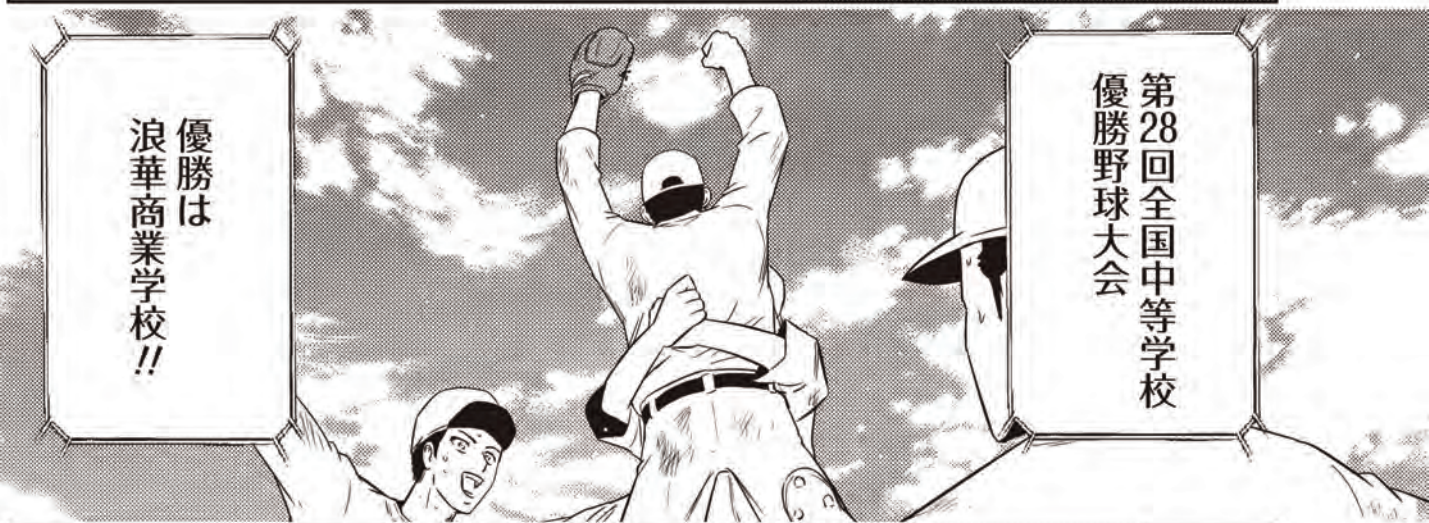
そうか……
なんという…

浪商
戦災により
再び校舎焼失――

野球だけでなく
校舎までも

生徒たちの笑顔を
奪う戦争が憎い――

3. 復活を遂げる浪商



実は――

焼け崩れた
校舎跡――

さあ
戦いはこれからだ

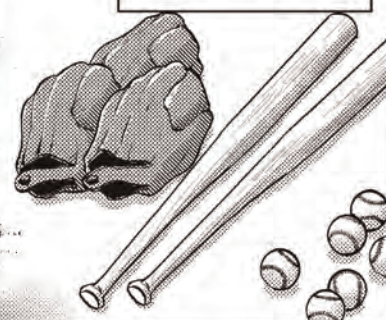
俺たちの
武器を取りに
行こう！

おお！！

野球道具を
戦火から守るため
疎開先に
避難させていた

そのため
野球部再建が
いち早くでき
今回の優勝に
繋がったのだろう

野田の持つ
秘めた闘志が
先生方に伝わり
生徒へも伝わっている
ことが現れた
出来事かもしれない



野田はさらに
学制改革により
戦前以上の
教育施設を
充実させていった

ねえ三郎さん
高校の教室が
空いているのは
どうするの？

妻・むつ



ウム…

それなら
幼稚園を
作りましょうよ

幼稚園？

そう
地元の方たちが
欲しているのよ
幼稚園だって
教育施設よ

ナルホド
そうか……



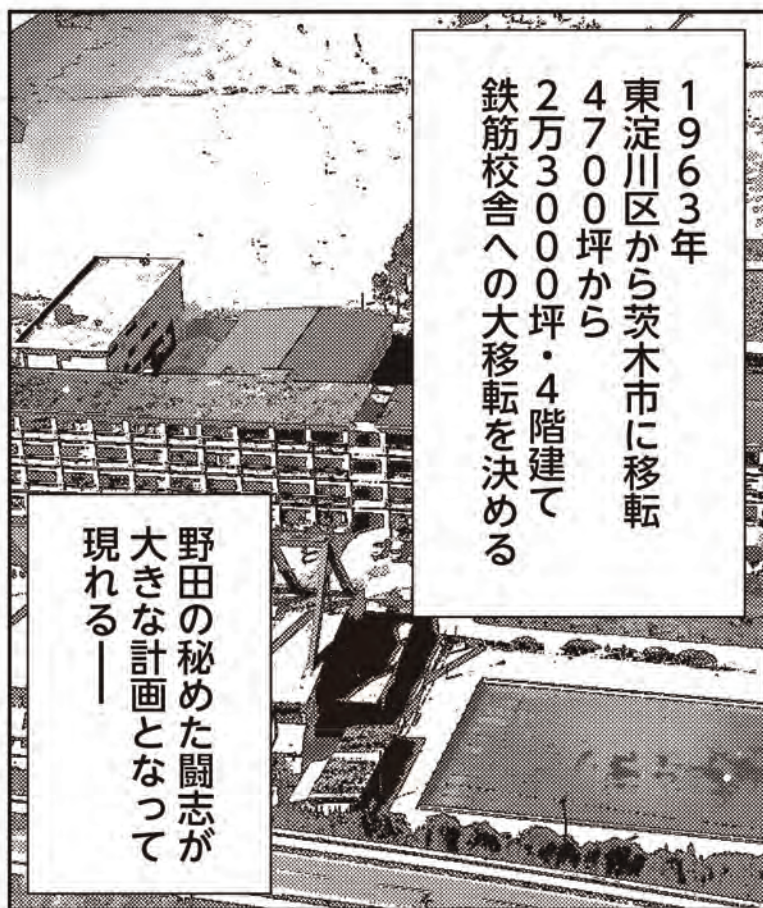
1950年
浪商附属
幼稚園設立認可

1959年
学校法人
浪商学園となる

私学としての
地位は
確固たるものと
なっていた



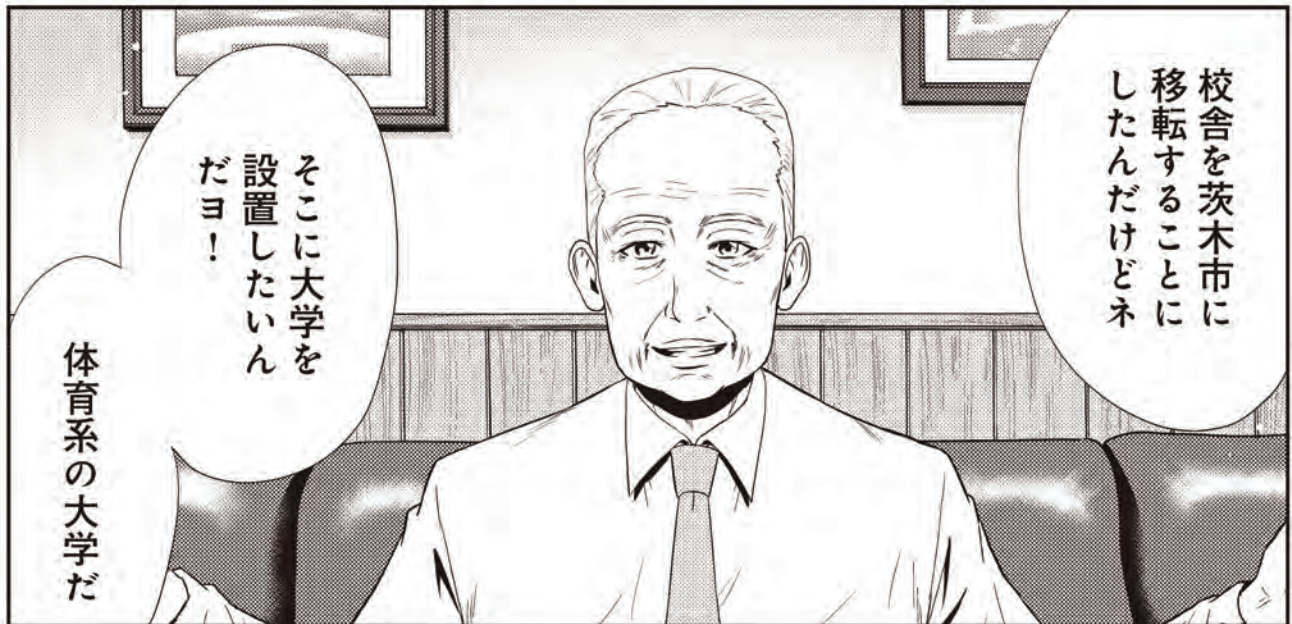
よしこの時が
チャンスだ!!



1963年
東淀川区から茨木市に移転
4700坪から
2万3000坪・4階建て
鉄筋校舎への大移転を決める

野田の秘めた闘志が
大きな計画となって
現れる――

4. 大学設立と浪商の未来



かと言って
他に適任と思われる
人もいないし
当たって砕けろです
交渉してみましよう

私も一緒に東京まで
会いに行きましょう

大島氏の関西大学での同級生
榎本金次郎関西大学教授

野田敏彦

中澤氏の提案のもと
浪商学園からは
野田敏彦
小山田秀實
片岡恒次郎

小山田秀實

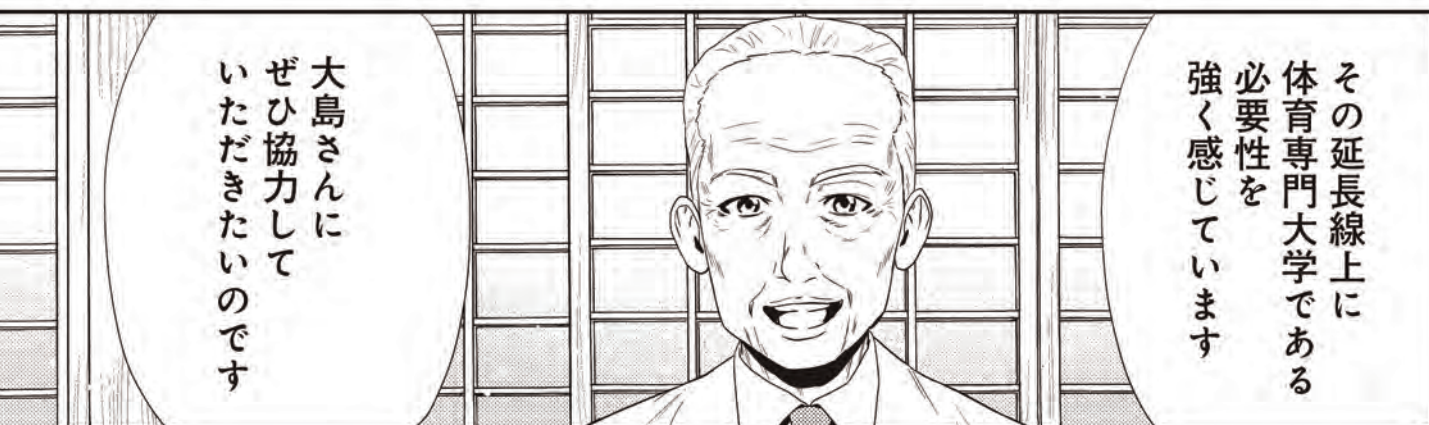
片岡恒次郎

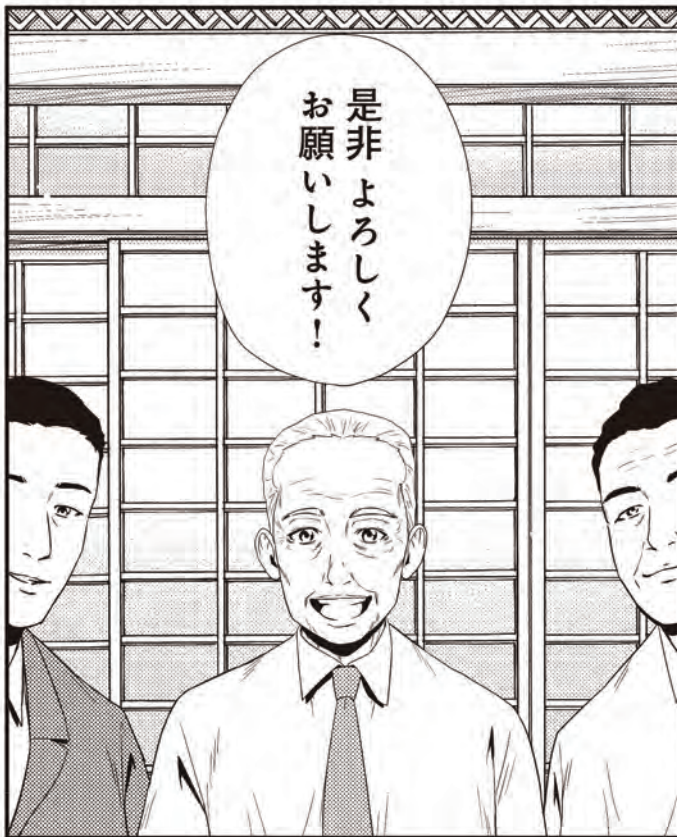
計6名が
「大島氏招聘団」を結成
上京し大島氏と
面談することになった

大島です
よろしく

教育には環境の整備が
重要と考えています
私は2度校舎が
焼失することがあり
その度実感してきました

この度さらに充実した
教育環境を整えるために
茨木市の2万3000坪の
土地に移転します



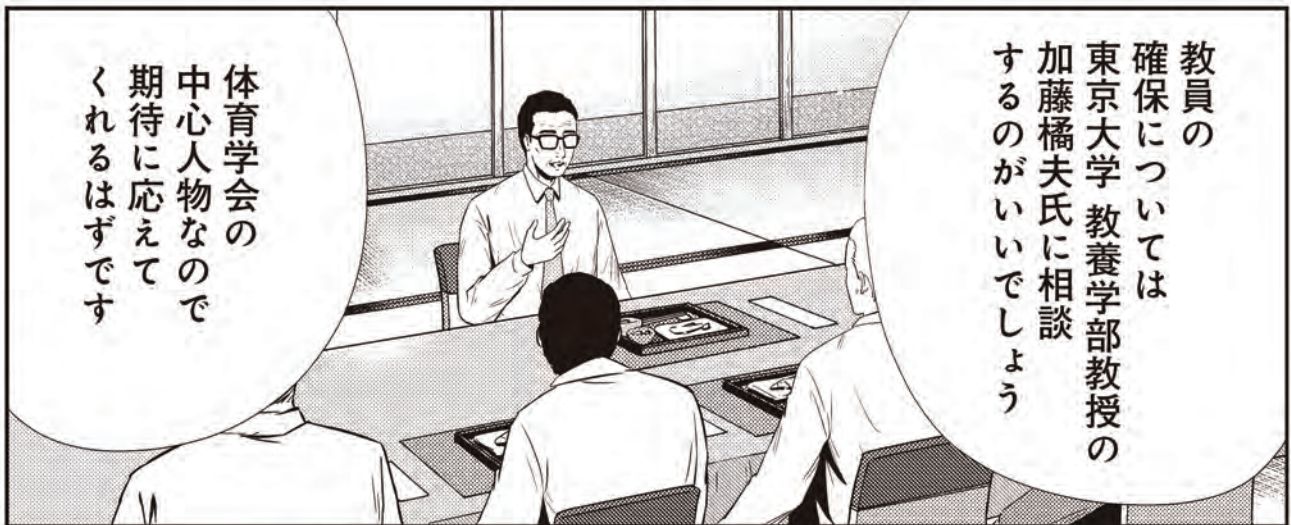


是非よろしく
お願いします！



「大阪産業大学」
として特色ある
大学にしては
いかがでしょうか？

その方向でなら
ぜひ協力しましょう



教員の
確保については
東京大学教養学部教授の
加藤橘夫氏に相談
するのがいいでしょう

体育学会の
中心人物なので
期待に応えて
くれるはずです



昭和三十九年九月

大阪産業大学設置認可申請書

学校法人浪商学園

大島氏の協力を得て
安堵した一行だった
後日
加藤氏の協力も得る
ことができた野田は
大学設立に向け動き出すが
クリアしなければ
ならない課題が多々あった――

動き始めて
わずか1年の出来事だった



野田の呼びかけにより
西日本で初めての
体育専門大学をやろうと
意欲のある人々を動かした
結果なのかもしれない

浪華商業学校創立者代表
兼校長に就任から
30年が経っていた

先生これは？

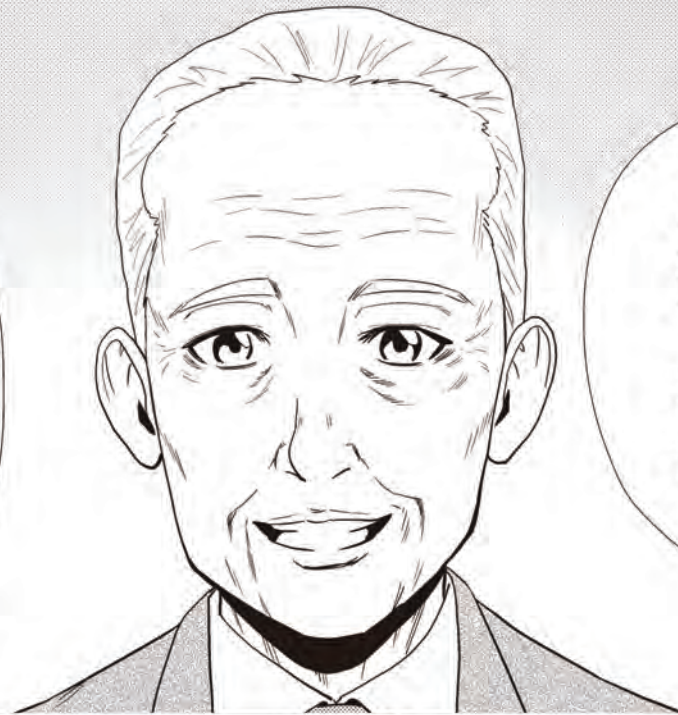
眞摯敢闘
野田三郎

これは私の
好きな言葉です

※眞摯敢闘：ひたむきに最後まであきらめずたたかうこと

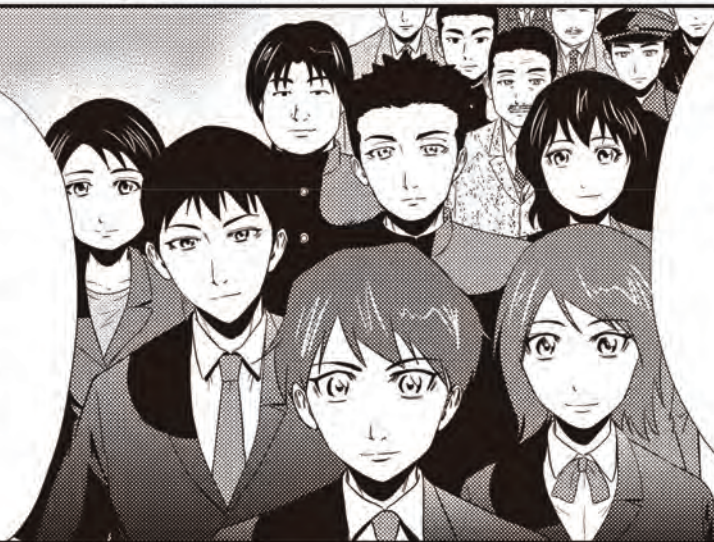
私がこれまで
やって来られたのは
この気持ちを念頭に

人に厚く
人を大切にしてきたからです
教育は一人ではできません



この学校に
来てくれた人たち
生徒はもちろん
保護者や
教え、支えてくれる
教職員に

この想いが伝わると
信じています



寡欲と寡黙 不言実行

野田の持ち続けた
秘めた闘志が礎となり

現在の学び舎

大阪体育大学・大学院

大阪体育大学浪商中学校・高等学校

大阪青凌中学校・高等学校

大阪体育大学浪商幼稚園へと

続いている

そして未来へも――

学校法人

浪商学園

大阪体育大学大学院
大阪体育大学

大阪体育大学浪商高等学校
大阪体育大学浪商中学校





編集後記

まず初めに、この度の編集に携わっていただいた、出版文化社様、作画担当の栗元健太郎様、またご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

学園100周年にあたり、記念誌と並行して、新たな試みとしてマンガを制作いたしました。本学園の礎を築いた野田三郎の功績を広く、また端的にお伝えするにはどうすれば良いかと考え、「マンガはどうか？」という野田賢治理事長の発案の下、部会が始動しました。

コンセプトは、皆さまに気軽に読んでいただくために、適度なボリュームを維持しつつ、要所をしっかりと押さえた内容にしなければならぬという部分に焦点を置き、作業を進めてまいりました。

中心となった部会は若手職員で構成されましたので、誰も野田三郎のことを詳しくは知りませんでした。作業の中で、野田三郎の功績や人となりを知ることができたのは非常に意義深い経験でした。これからの浪商学園を担う職員が野田三郎の信念に触れる機会を創出できたことは、このマンガの完成と同じくらい、価値のあるものだと感じています。

さまざまな思いの詰まった作品の制作に携われたことに深く感謝し、編集後記といたします。

100周年記念誌委員会 マンガ部会

部会長 野田 達彦

部会員 高津 真人

長澤 恵里

中辻 由幸

松本 和典

眞摯敢闘 ―マンガ 野田三郎伝―

令和3年11月15日 発行

発行者

学校法人 浪商学園 理事長 野田賢治

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1番1号

TEL：(072) 453-7018 FAX：(072) 453-7027

編集

100周年記念誌委員会 マンガ部会

編集・制作

株式会社出版文化社

大阪・本町 東京・日本橋茅場町 名古屋・金山

© NAMISHO GAKUEN 2021 Printed in Japan

※記事・写真の無断引用、転載を禁じます。



NAMISHO
GAKUEN
100th Anniversary



学校法人 浪商学園